

2025年3月期決算説明会

2025年5月13日

 日本カーバイド工業株式会社



2025年3月期決算の概要



サマリー【連結損益計算書】

- 電子・機能製品事業は、エレクトロニクス市況の緩やかな回復に伴い、半導体及び電子部品向け製品の出荷が増加。
- フィルム・シート製品事業は、二輪車向け製品やナンバープレート向け製品の出荷が増加。
- 建材関連事業は、アルミ地金価格高騰による原材料価格の上昇により収益性が悪化。
- エンジニアリング事業は、製鉄分野向けカーボンニュートラルトランジション設備の受注増により売上が増加。
- 以上の結果、前期比**増収増益**。

単位：百万円

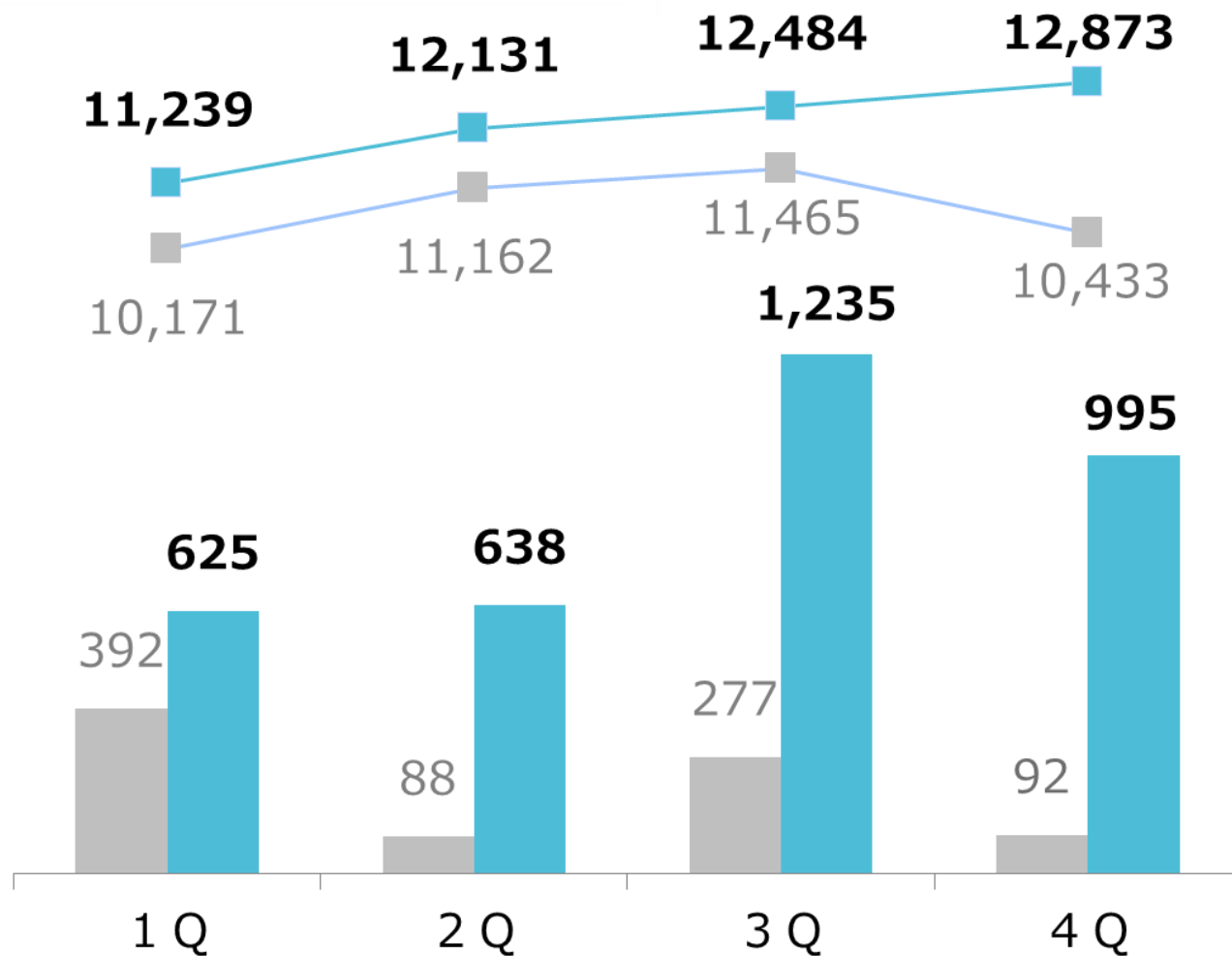
	2024年3月期	2025年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	43,231	48,727	5,495	+12.7%
営業利益	849	3,493	2,644	+311.4%
営業利益率	2.0%	7.2%	—	+5.2ポイント
経常利益	1,573	3,761	2,188	+139.1%
当期純利益	999	2,211	1,211	+121.2%



四半期業績トレンド

各四半期とも前年同期比増収増益。
第4四半期は期末決算調整等により第3四半期比減益。

■ 2024年3月期売上高 ■ 2025年3月期売上高 ■ 2024年3月期営業利益 ■ 2025年3月期営業利益



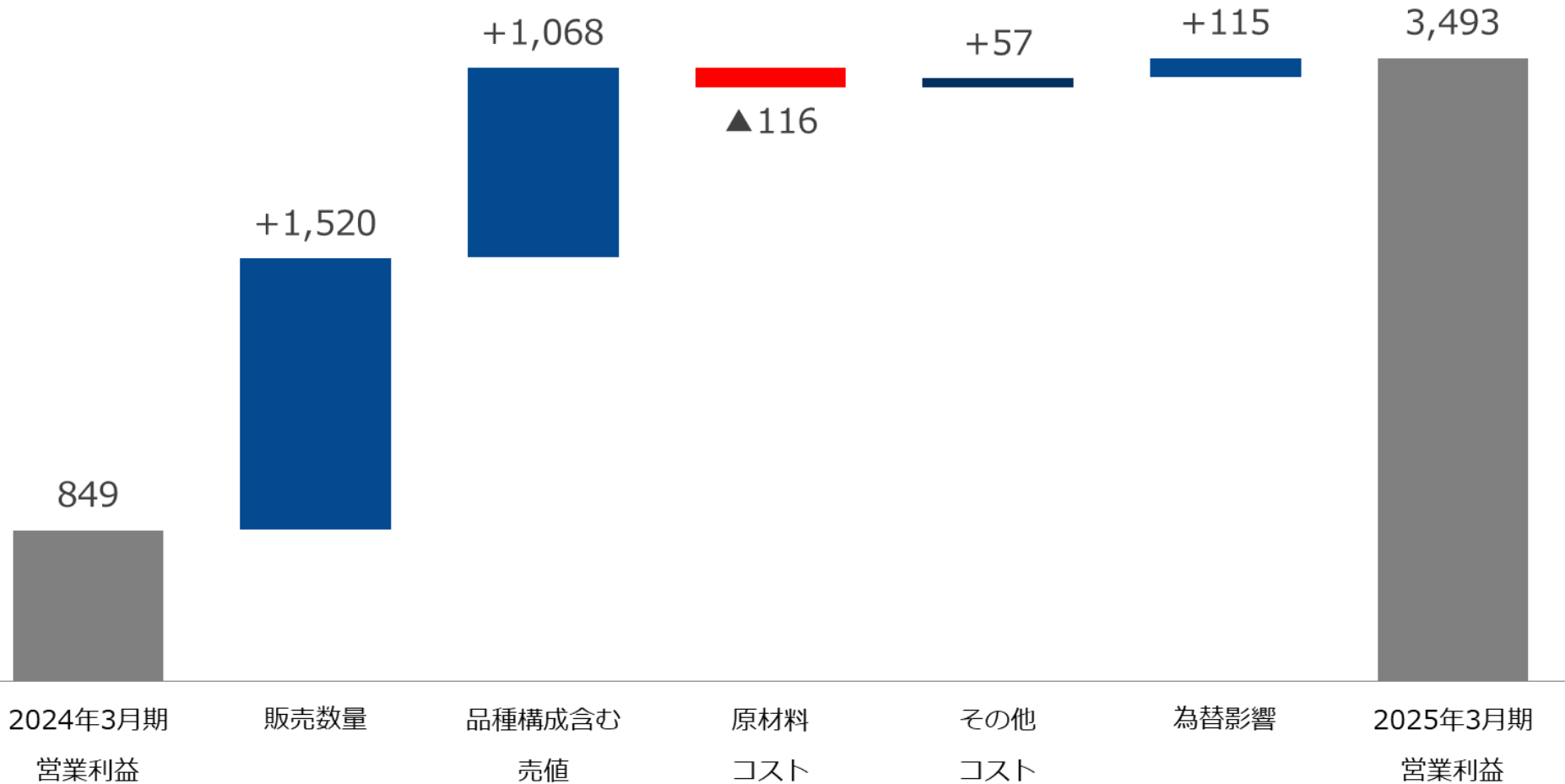
単位：百万円

営業利益増減要因分析 2024年3月期v.s.2025年3月期



前期比 2,644百万円増益

単位：百万円



セグメント別業績



単位：百万円

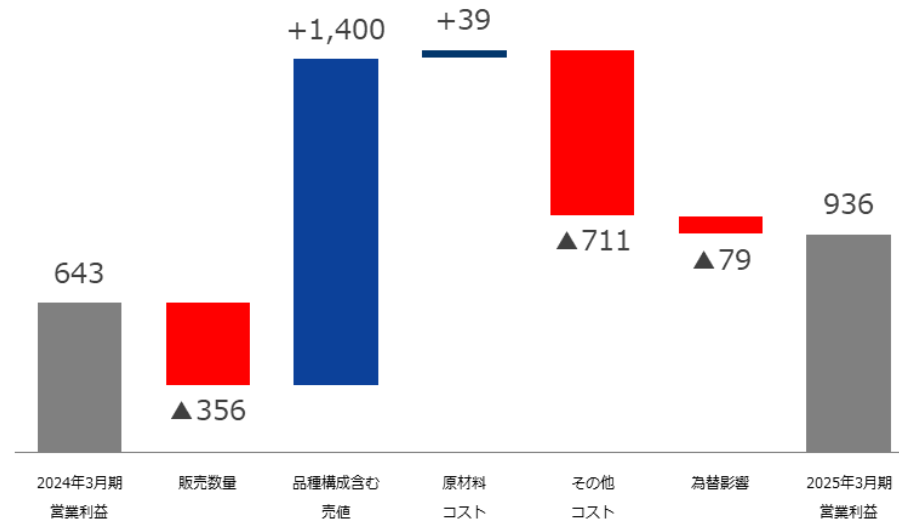
		2024年3月期	2025年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	16,545	17,414	868	+5.3%
	営業利益	643	936	292	+45.5%
フィルム・シート製品	売上高	17,498	20,955	3,456	+19.8%
	営業利益	655	2,568	1,912	+291.6%
建材関連	売上高	7,112	7,004	▲ 108	▲1.5%
	営業利益	272	75	▲ 197	▲72.5%
エンジニアリング	売上高	2,491	3,598	1,107	+44.5%
	営業利益	▲ 136	433	569	-
連結調整	売上高	▲ 416	▲ 245	171	-
	営業利益	▲ 586	▲ 518	68	-
連結合計	売上高	43,231	48,727	5,495	+12.7%
	営業利益	849	3,493	2,644	+311.4%

セグメント別状況 電子・機能製品事業



単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	16,545	17,414	868	+5.3%
機能化学品	2,913	4,225	1,312	+45.0%
機能樹脂	8,290	7,562	▲ 727	▲ 8.8%
電子素材	5,341	5,625	284	+5.3%
営業利益	643	936	292	+45.5%



機能化学品 増収増益

- + エレクトロニクス市況の緩やかな回復に伴い、半導体及び電子部品向け製品の出荷が増加

機能樹脂 減収減益

- + 原材料価格の上昇に応じた製品価格の改定により損益へプラスに影響
- 中国及び国内市場向け次世代製品への切替遅延により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が減少

電子素材 増収減益

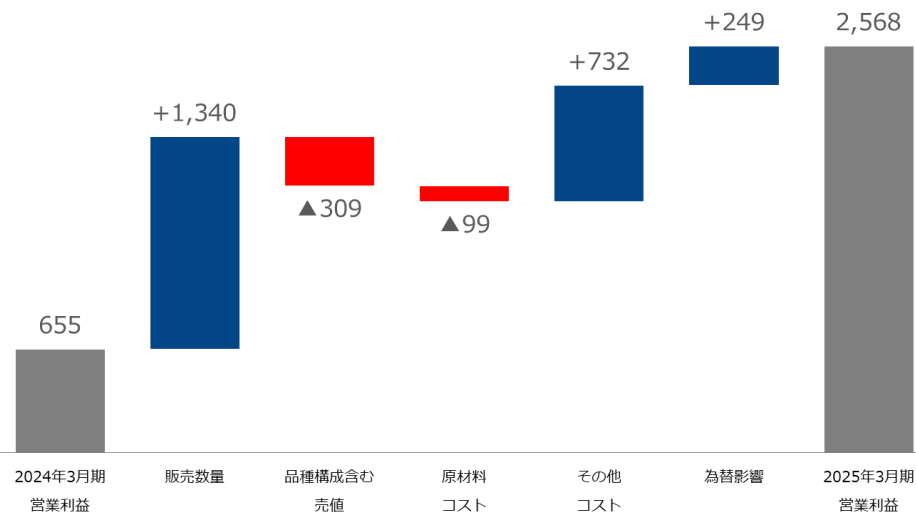
- + エレクトロニクス市況の緩やかな回復に伴い、半導体及び電子部品向け製品の出荷が増加
- 在庫削減による損益へのマイナス影響



セグメント別状況 フィルム・シート製品事業

単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	17,498	20,955	3,456	+19.8%
フィルム	1,330	1,488	158	+11.9%
ステッカー	6,515	7,247	731	+11.2%
再帰反射シート	9,652	12,219	2,567	+26.6%
営業利益	655	2,568	1,912	+291.6%



フィルム 増収増益

- + 中国での拡販により、レーザーマーキングラベルの出荷が増加

ステッカー 増収増益

- + ベトナムやインドネシア、ブラジルでの二輪車生産台数の増加により二輪車関連製品の出荷が増加

再帰反射シート 増収増益

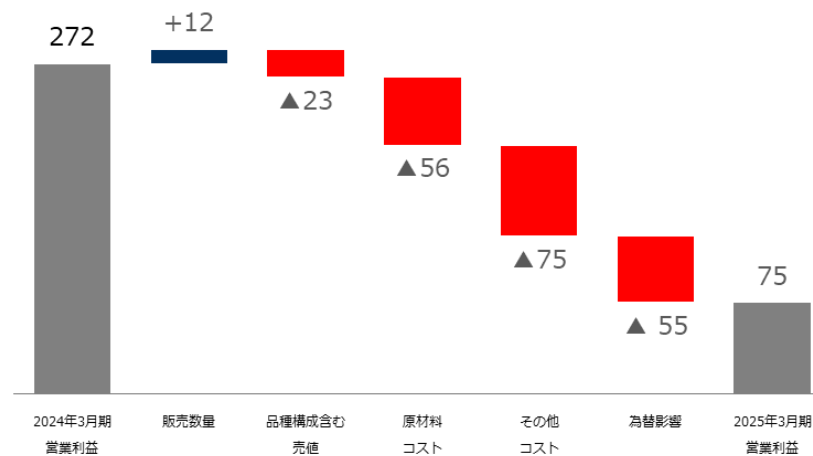
- + 欧州での販売シェア拡大によりナンバープレート向け製品の出荷が増加



セグメント別状況 建材関連事業

単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	7,112	7,004	▲ 108	▲1.5%
営業利益	272	75	▲ 197	▲72.5%



減収減益

- + 省エネ補助金制度による住宅リフォーム需要増により住設用樹脂押出成形品の出荷が増加
- 住宅着工戸数の減少によるアルミ建材の売上が減少
- アルミ地金価格高騰による原材料価格の上昇

セグメント別状況 エンジニアリング事業



単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	2,491	3,598	1,107	+44.5%
営業利益	▲ 136	433	569	-

増収増益

- + 製鉄分野向けカーボンニュートラルトランジション設備の受注増により売上が増加
- + 調達効率化等のコストダウンが損益へプラスに影響

【サマリー】 連結貸借対照表



単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	前期末比
現金及び預金	13,442	14,538	1,096
売上債権	12,526	13,928	1,401
棚卸資産	9,368	9,671	304
有形固定資産・無形固定資産	24,004	23,712	▲ 292
その他	1,680	1,511	▲ 169
資産合計	61,020	63,360	2,340
有利子負債	11,491	9,902	▲ 1,589
仕入債務	5,537	5,890	353
その他	9,368	9,662	295
負債合計	26,396	25,454	▲ 941
株主資本	23,996	25,388	1,391
その他の包括利益累計額	8,634	10,333	1,698
非支配株主持分	1,992	2,184	192
純資産合計	34,623	37,906	3,282
負債純資産合計	61,020	63,360	2,340
D/Eレシオ	0.35	0.28	▲ 0.07
自己資本	32,630	35,721	3,091
自己資本比率	53.5%	56.4%	2.9ポイント

連結キャッシュフロー計算書



フリーキャッシュフローは2,893百万円。

単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	前期比
税金等調整前当期純利益	1,797	3,460	1,663
減価償却費	2,014	1,921	▲ 92
運転収支	422	▲ 717	▲ 1,139
その他	1,140	▲ 559	▲ 1,699
営業活動によるキャッシュフロー	5,373	4,105	▲ 1,267
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 2,437	▲ 1,212	1,225
フリーキャッシュフロー	2,935	2,893	▲ 42
借入金の増減額	▲ 303	▲ 1,551	▲ 1,248
配当金の支払額	▲ 611	▲ 837	▲ 226
その他	▲ 350	▲ 155	196
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 1,264	▲ 2,543	▲ 1,278
現金及び現金同等物に係る換算差額	564	656	92
現金及び現金同等物の増減額	2,235	1,006	▲ 1,229
現金及び現金同等物の期末残高	12,057	13,063	1,006



エレクトロニクス戦略市場を中心とした事業環境の変化に合わせ、設備投資計画の見直しを実施し、前期比116百万円減少。

単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	前期比
設備投資額	1,324	1,208	▲ 116
電子・機能製品	320	501	181
フィルム・シート製品	755	290	▲ 465
建材関連	40	65	25
エンジニアリング	30	47	17
共通・調整	177	303	126
減価償却費	2,014	1,921	▲ 93
電子・機能製品	718	713	▲ 4
フィルム・シート製品	692	627	▲ 65
建材関連	112	93	▲ 19
エンジニアリング	56	60	4
共通・調整	434	426	▲ 8
研究開発費	2,113	2,020	▲ 93

主な設備投資案件

- 関係会社向けDX推進のための基幹システム導入
- 電子・機能製品事業向け環境負荷低減のための設備刷新

※設備投資額は、設備等が検収された時点を以て資産計上された金額。投資活動によるキャッシュフローの有形固定資産の取得による支出は検収された設備等の資金が実際に支払われた時点での金額となり、差異が生じる



2026年3月期決算の通期業績予想



2026年3月期 連結業績予想

米国追加関税措置における直接影響として追加関税率を24～46%、中国からは30%と想定。

一部価格転嫁などの対策も行う計画での通期業績予想は、売上高は前期比増収、営業利益は前期比減益も、当期純利益は増益。

当社グループの米国向け売上高比率は約6%、この内中国製に限ると約5%。

単位：百万円

	2025年3月期		2026年3月期業績予想			参考：米国追加関税措置なし 2026年3月期		
	①実績		②業績予想	増減額 (②-①)	増減率 (②-①)	③業績予想	増減額 (③-①)	増減率 (③-①)
売上高	48,727		49,000	273	+0.6%	49,000	273	+0.6%
営業利益	3,493		3,300	▲ 193	▲ 5.5%	3,600	107	+3.1%
利益率	7.2%		6.7%	-	▲ 0.5ポイント	7.3%	-	+0.1ポイント
経常利益	3,761		3,400	▲ 361	▲ 9.6%	3,700	▲ 61	▲ 1.6%
利益率	7.7%		6.9%	-	▲ 0.8ポイント	7.6%	-	▲ 0.1ポイント
当期純利益	2,211		2,300	89	+4.0%	2,500	289	+13.1%
利益率	4.5%		4.7%	-	+0.2ポイント	5.1%	-	+0.6ポイント
1株当たり 配当	中間	40円	41円	2円	+2.5%	41円	2円	+2.5%
	期末	40円	41円			41円		

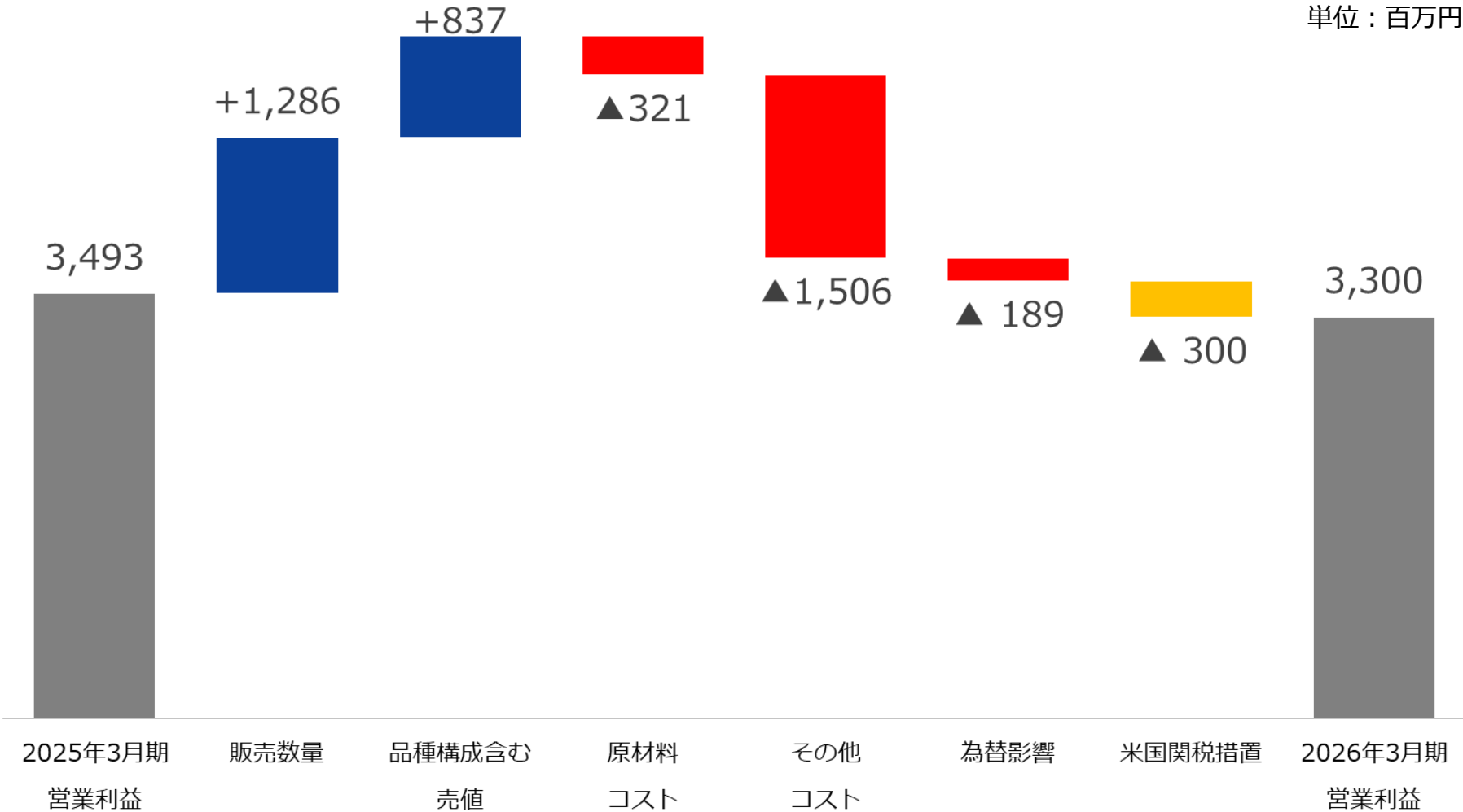
2026年3月期は株主還元の充実を目指し、年間普通配当82円を予定。
株主還元方針は、配当性向30%以上を目途に安定配当の継続を目指す。¹⁵

営業利益増減要因分析 2025年3月期v.s.2026年3月期



前期比 193百万円**減益**

単位：百万円



セグメント別 事業見通し



電子・機能 製品

機能化学品	+ 半導体市況回復及び新用途での採用により、出荷が増加
機能樹脂	+ 中国や国内市場での拡販により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が増加
電子素材	+ 半導体及び電子部品市況回復により、出荷が増加

フィルム・ シート製品

フィルム	+ 日本及び中国市場での拡販により、次世代高機能フィルムの出荷が増加
ステッカー	+ ベトナムやインドネシア、南米での二輪車生産台数増加により、二輪車向け製品の出荷が増加 - 人件費の増加による損益へのマイナス影響 - 米国追加関税措置による損益へのマイナス影響 - 為替による損益へのマイナス影響
再帰反射シート	+ 中近東市場での拡販により、ナンバープレート向け製品の出荷が増加 - 欧州での自動車販売台数減少により、ナンバープレート向け製品の出荷が減少 - 米国追加関税措置による損益へのマイナス影響 - 為替による損益へのマイナス影響

建材関連

+ 高層マンションの竣工増により、高強度高機能手すりの売上が増加

エンジニア リング

+ EPC事業(E ngineering:設計 P rocurement:調達 C onstruction:建設の3工程を一貫して引き受ける事業)の拡大により、売上増加
- 前期にカーボンニュートラルトランジション事業向け大型工事が完工し当期は売上減少

セグメント別 業績予想



単位：百万円

		2025年3月期	2026年3月期	前期比	
		実績	業績予想	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	17,414	17,800	386	+2.2%
	営業利益	936	1,840	904	+96.6%
フィルム・シート製品	売上高	20,955	20,300	▲ 655	▲ 3.1%
	営業利益	2,568	1,940	▲ 628	▲ 24.5%
建材関連	売上高	7,004	7,400	396	+5.7%
	営業利益	75	140	65	+86.7%
エンジニアリング	売上高	3,598	4,000	402	+11.2%
	営業利益	433	300	▲ 133	▲ 30.7%
連結調整	売上高	▲ 245	▲ 500	▲ 255	-
	営業利益	▲ 518	▲ 920	▲ 402	-
連結合計	売上高	48,727	49,000	273	+0.6%
	営業利益	3,493	3,300	▲ 193	▲ 5.5%



中期経営計画「NCIキラリ2025」進捗状況

進捗状況 財務目標



2025年度業績目標の達成については、米国追加関税措置の影響を見極めた上で、次期中期経営計画期間内での達成を目指す。

単位：億円

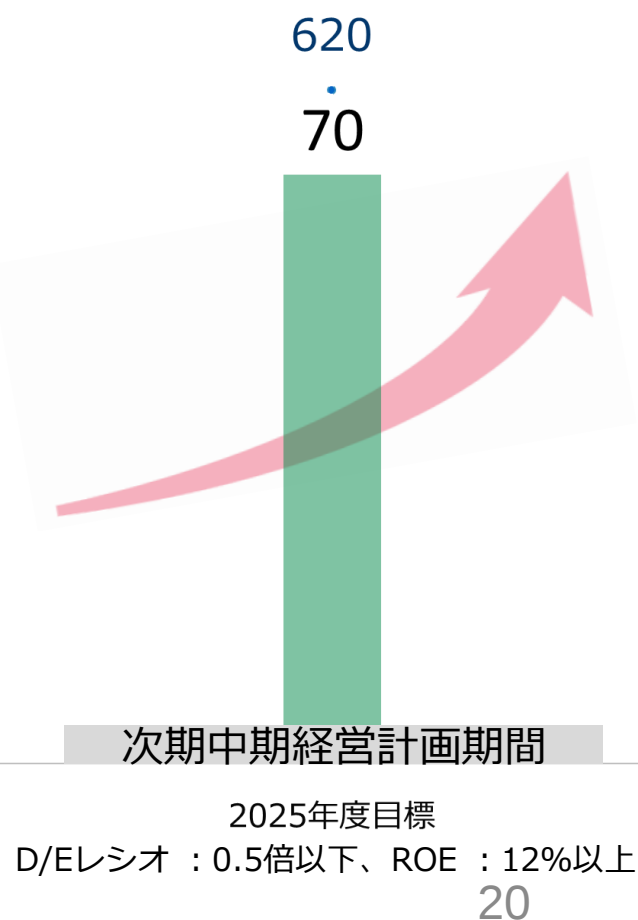
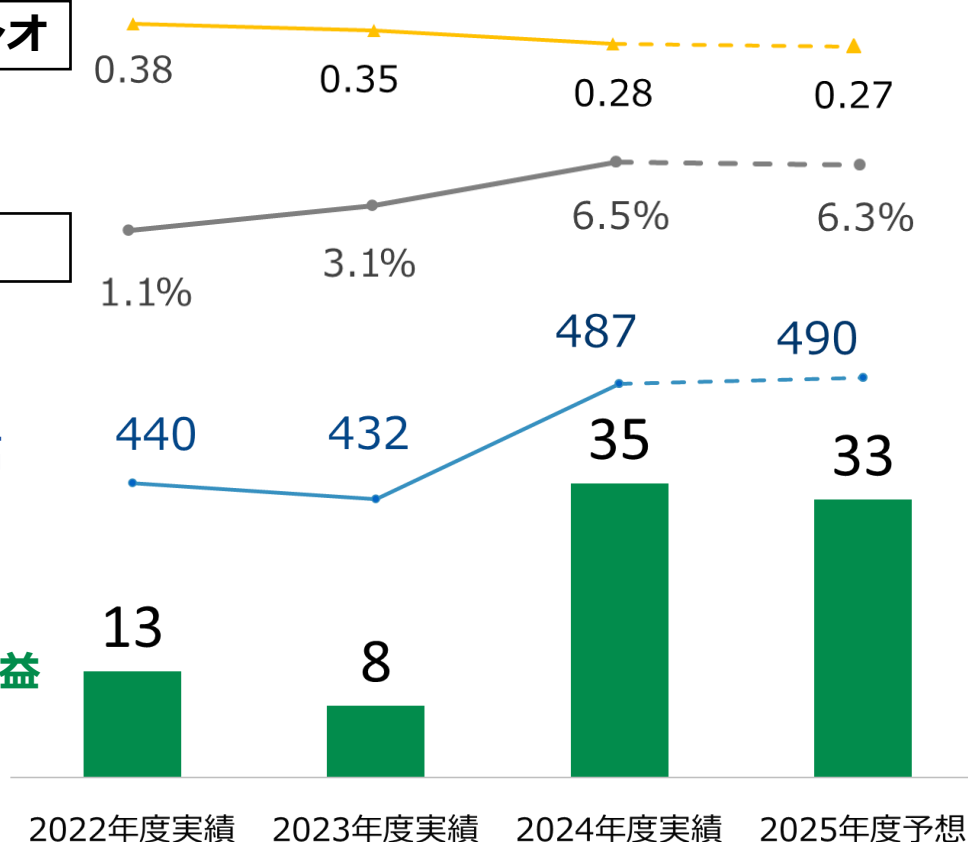
D/Eレシオ

単位：倍

ROE

● 売上高

■ 営業利益

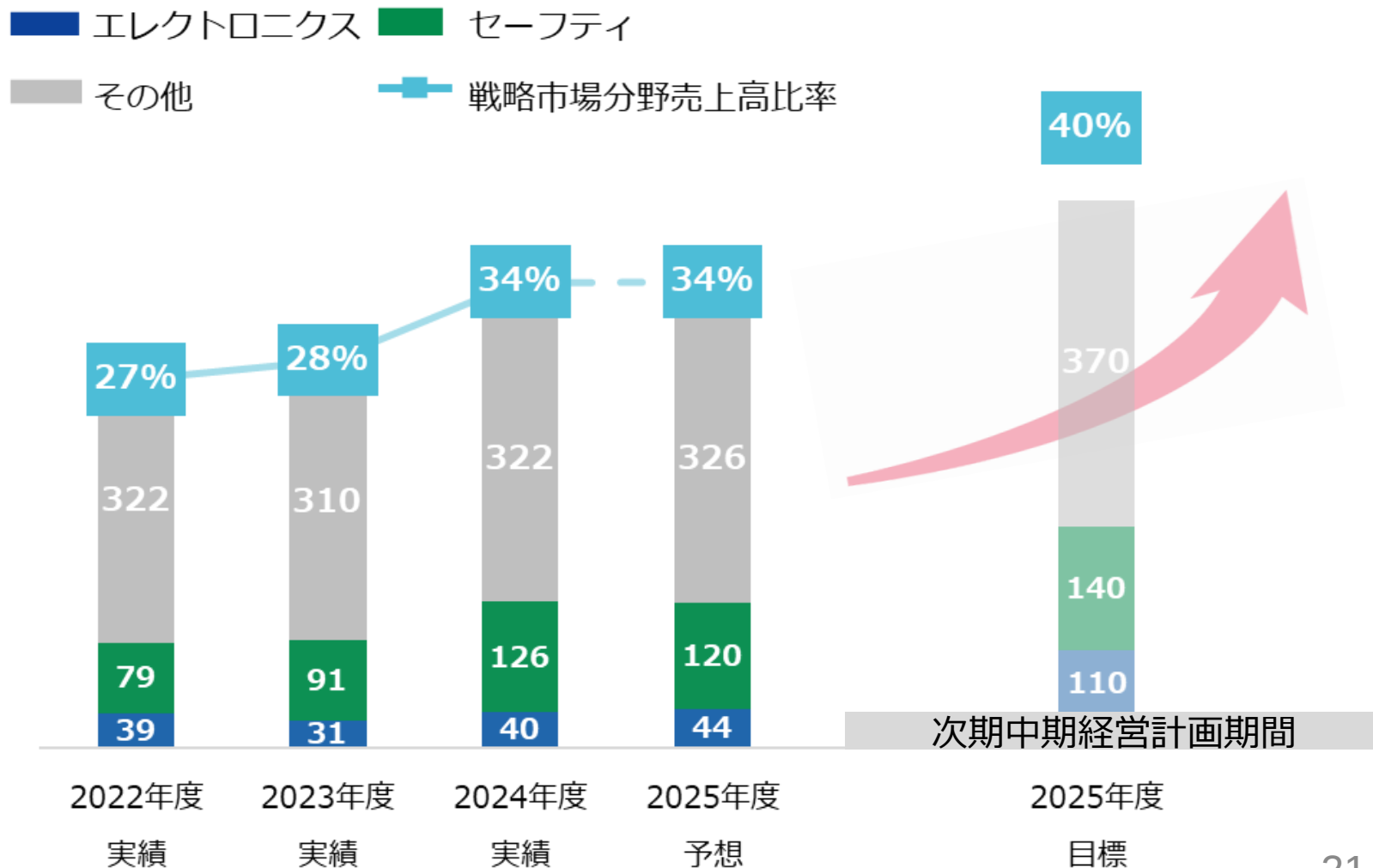


進捗状況 戦略市場分野 売上高



エレクトロニクス、セーフティともに次期中期経営計画期間内での目標達成を目指す。

単位：億円

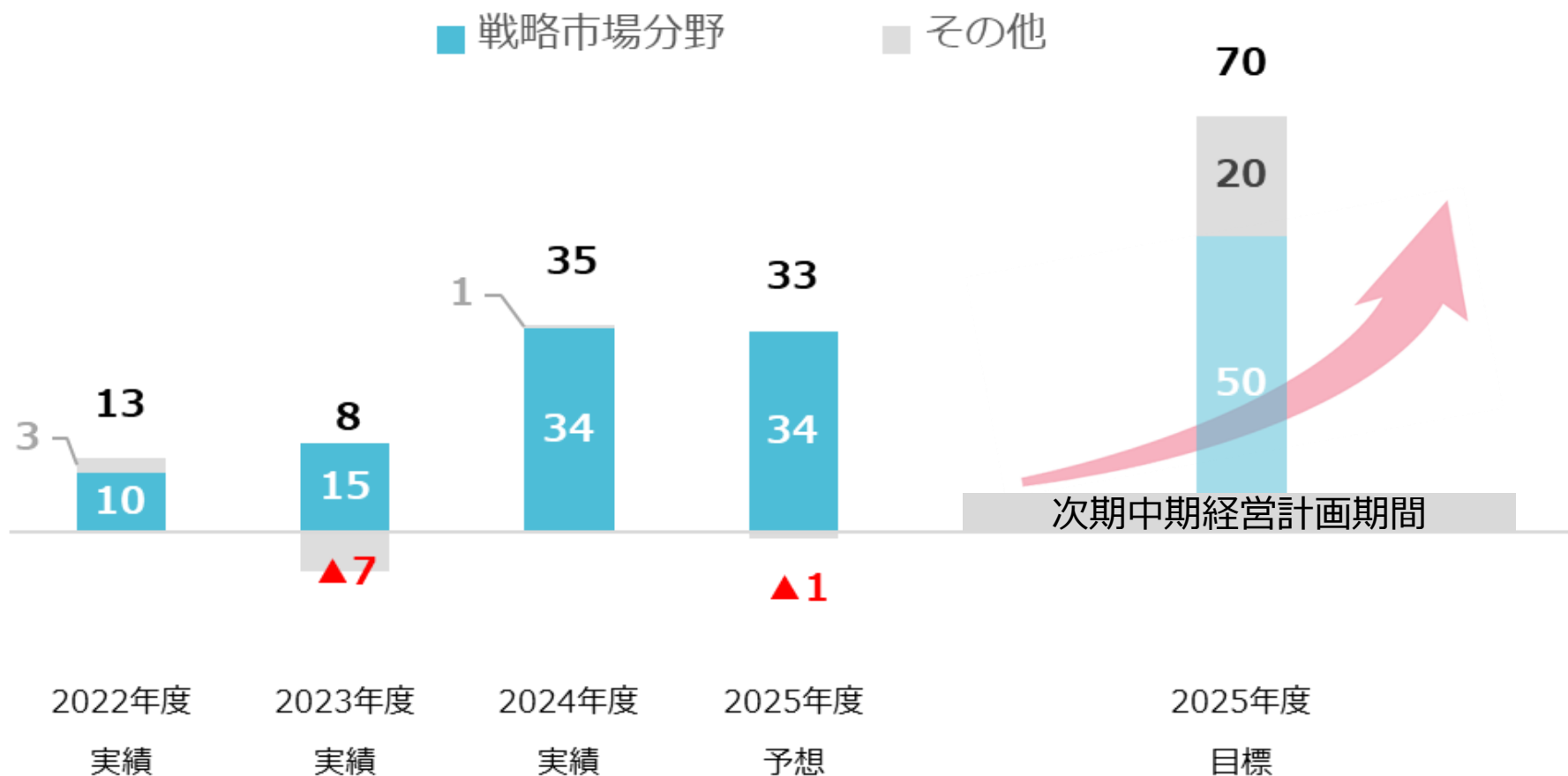


進捗状況 戦略市場分野 営業利益



戦略市場分野での営業利益は拡大傾向も、次期中期経営計画期間内での目標達成を目指す。

単位：億円

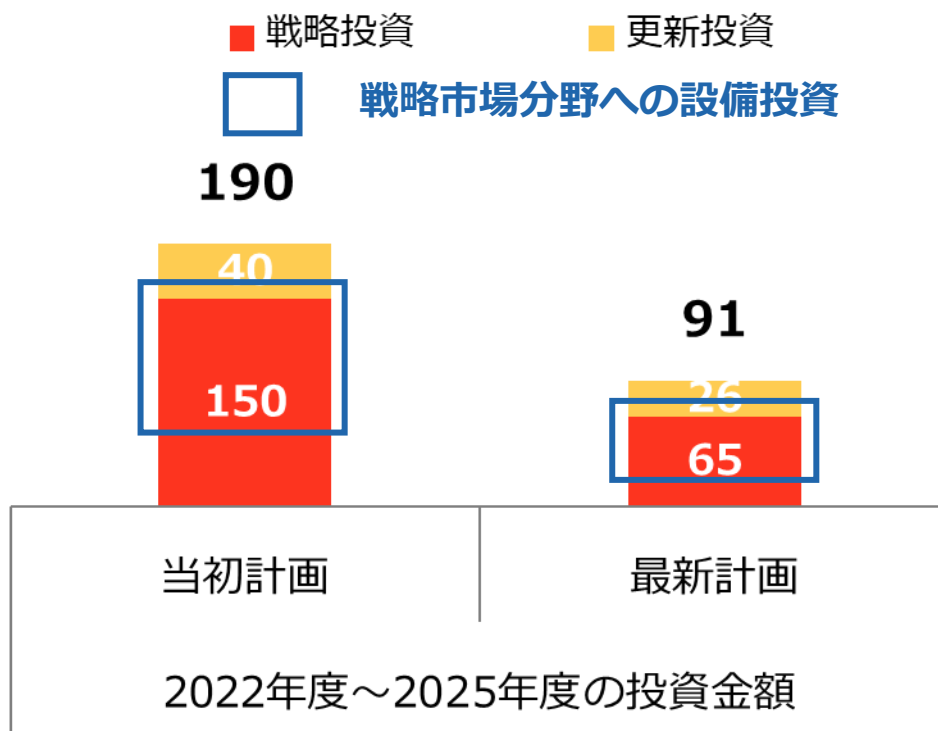


主要課題と施策



セグメント	分野	主要課題	2025年度での主な施策
電子・ 機能製品	戦略市場 分野	半導体材料向けや電子デバイス向け製品を中心とした高付加価値品の拡販	電子デバイスや先端半導体分野でのお客様との製品開発の推進
	その他	中国市場での光学用粘着剤などの拡販	国内での研究開発バックアップ体制と中国でのテクニカルサービスの強化
フィルム・ シート製品	戦略市場 分野	次世代高機能フィルムや環境対応加飾成形品での新規ビジネス拡大	- 車載向けで培った高機能ラベル性能のエレクトロニクス市場等への展開と更なる高付加価値化 - 二輪車向けで培った環境対応型3Dエンブレムの自動車向けへの新規参入強化
	その他	米国でのグラフィック市場向け反射シートの拡販	- 大手ディストリビューターとの連携強化 - 粘着性能の向上による多様な基材への対応
建材関連	戦略市場 分野	超高層ビル向け高強度高機能手すりの拡販	高層階での高い安全性を有する製品設計を武器に差別化
	その他	- EV車用カーポート製品の拡販 - LED照明製品(手すり・笠木)の店舗・商業施設などへの拡販	積雪地域等の地域性に沿った製品開発の推進
エンジニア リング	戦略市場 分野	カーボンニュートラルトランジションでの事業機会獲得によるビジネス拡大	長年培った粉体搬送技術を武器にお客様ニーズへの対応推進
	その他	EPC事業(Engineering:設計Procurement:調達 Construction:建設の3工程を一貫して引き受ける事業)の拡大	施設内常駐によるお客様との協力関係強化

エレクトロニクス戦略市場関連を中心とした事業環境の変化に伴い、設備投資計画の見直しを実施。



主な設備投資削減案件

- ・ 半導体及び電子部品向け製品の設備投資
- ・ 反射シート製品関連の設備投資

単位：億円

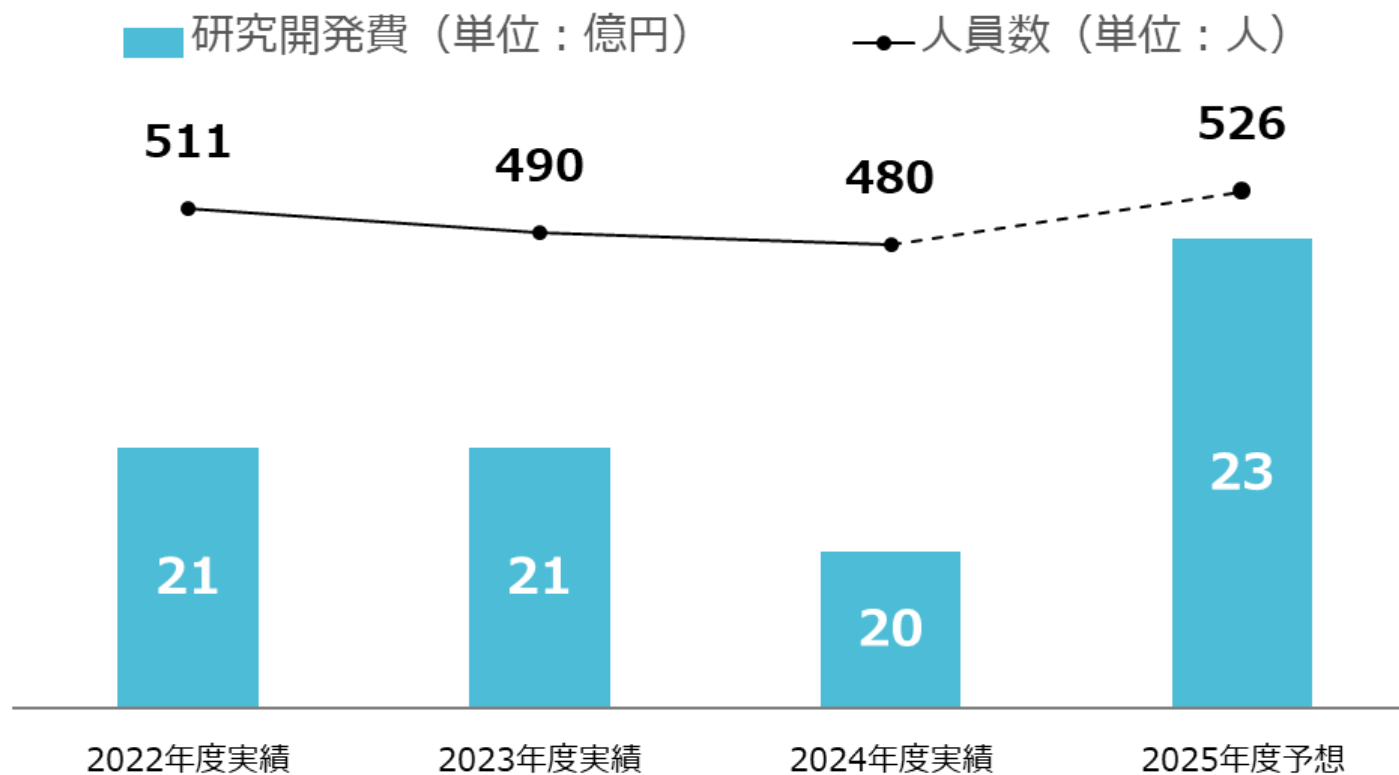
戦略市場分野
への設備投資

110億円

63億円



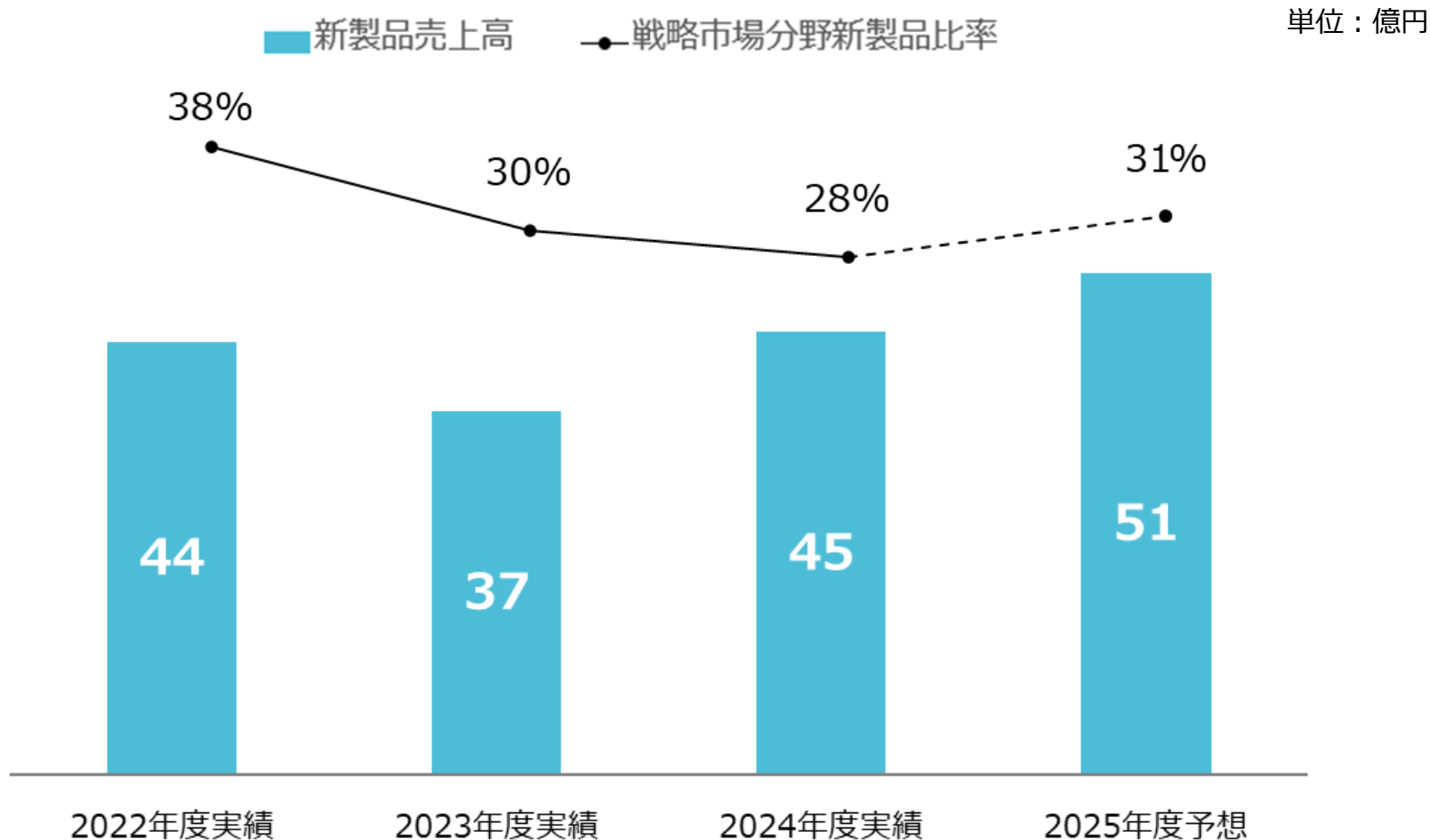
研究開発費及び研究開発人員ともに増加の計画。



新製品売上高比率



戦略市場分野での新製品売上高比率は2024年度28%（45億円）の実績。
2025年度は当初目標35%に対して、31%（51億円）を計画。





資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

PBR改善に向けた取り組み



PBRの改善が重要な経営課題と認識、ROEとPERの両面より施策を推進。
2023年3月期PBR0.40から2025年3月期は0.47へ改善傾向。

PBR

=

ROE

×

PER

R O E	事業戦略	戦略市場	成長ドライバーの拡販や新たな成長ドライバーの創出による事業成長 ⇒市況回復遅れにより、次期中期経営計画に向けて戦略再構築
		基盤事業	収益性の低い基盤事業の体質強化 ⇒損益分岐点管理等の経営管理強化、低収益事業の見極め
		株主還元	配当性向30%以上を目途に安定配当継続実施 ⇒2023年度80円配当、2024年度80円配当・自己株式取得2億円、 2025年度82円配当
	資本戦略 財務戦略	有利子負債	健全な財務体質を維持しつつ、必要性に応じた有利子負債の活用検討 ⇒戦略投資等での活用検討
		資金効率化	政策保有株式等の資産売却やグループ会社も含めた資金の活用 ⇒政策保有株式売却ほぼ終了、グループ会社も含めた資金を戦略投資等に活用
P E R	PER向上	サステナビリティ	サステナビリティ経営の推進 ⇒ GHG排出量の2030年ロードマップの策定・実行、人権方針策定等

太字：現在、取り組んでいる施策



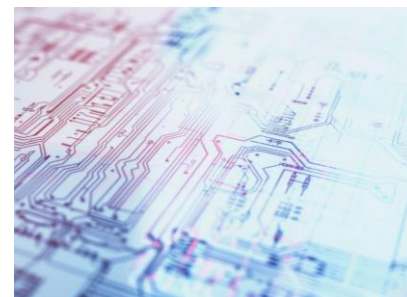
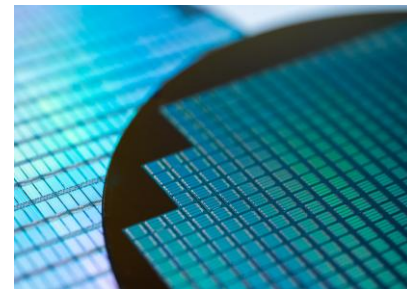
TOPICS



半導体市場でのレジスト架橋剤の引合い増加

当社は石灰窒素を原料としてメラミンの製造実績があり、熱硬化性のメラミン系、尿素系の架橋剤を製造販売しています。半導体関連で重要な管理基準である金属イオン成分の管理により、独自の精製方法で他社が真似のできないレベルに低メタル化したOne&Onlyの架橋剤を開発。安定した品質管理により、半導体の前工程での回路配線に使用される「フォトレジスト」、「下層膜」、「バッファークコート膜（半導体素子の保護）」や後工程で使用される「RDL（再配線層）」向けの感光性樹脂の架橋剤として、お客様からの信頼を得ています。

生成AI、HBM(高帯域幅メモリ)などの最先端製品の需要増に伴い、引合いが増加しており、当社が長年培ったメラミンや尿素に関する技術力と更なる架橋剤の開発力を融合させ、お客様のご要望にお応えします。





再帰反射性能を有したステッカーの販売拡大

再帰反射とは、光が入った方向に再び帰る反射現象のことです。再帰反射の性能を有したステッカーは、当社グループのオリジナル製品の1つです。現在は自動車に主に使用されており、二輪車やモビリティ以外の用途拡大に注力しています。

● 再帰反射ステッカー

光が当たっていない状態



光を当てると、入射した光が入射方向に帰り（再帰反射）絵柄が見えるようになります。黒色のステッカーから様々な色に反射する技術は、当社独自のものです





環境対応加飾成型品の販売拡大

金属調の光沢を持つ3Dエンブレムは、当社の環境対応加飾成型品の1つです。新製品として、「内照発光式3Dソフトエンブレム」と「再帰反射3Dソフトエンブレム」を開発しました。いずれの製品もお客様より意匠性に関して高い評価を頂いており、お客様のニーズ探求による更なる改良を加え、当社海外拠点ネットワークを活用し、販売拡大を目指しています。

● 内照発光式3Dソフトエンブレム

点灯前。金属調の外観により高級感を演出



暗いところで点灯すると、内側から発光



● 再帰反射3Dソフトエンブレム

光が当たっていない状態



光を当てると、入射した光が入射方向に帰り（再帰反射）視認性が高まる





付属資料

連結業績の推移

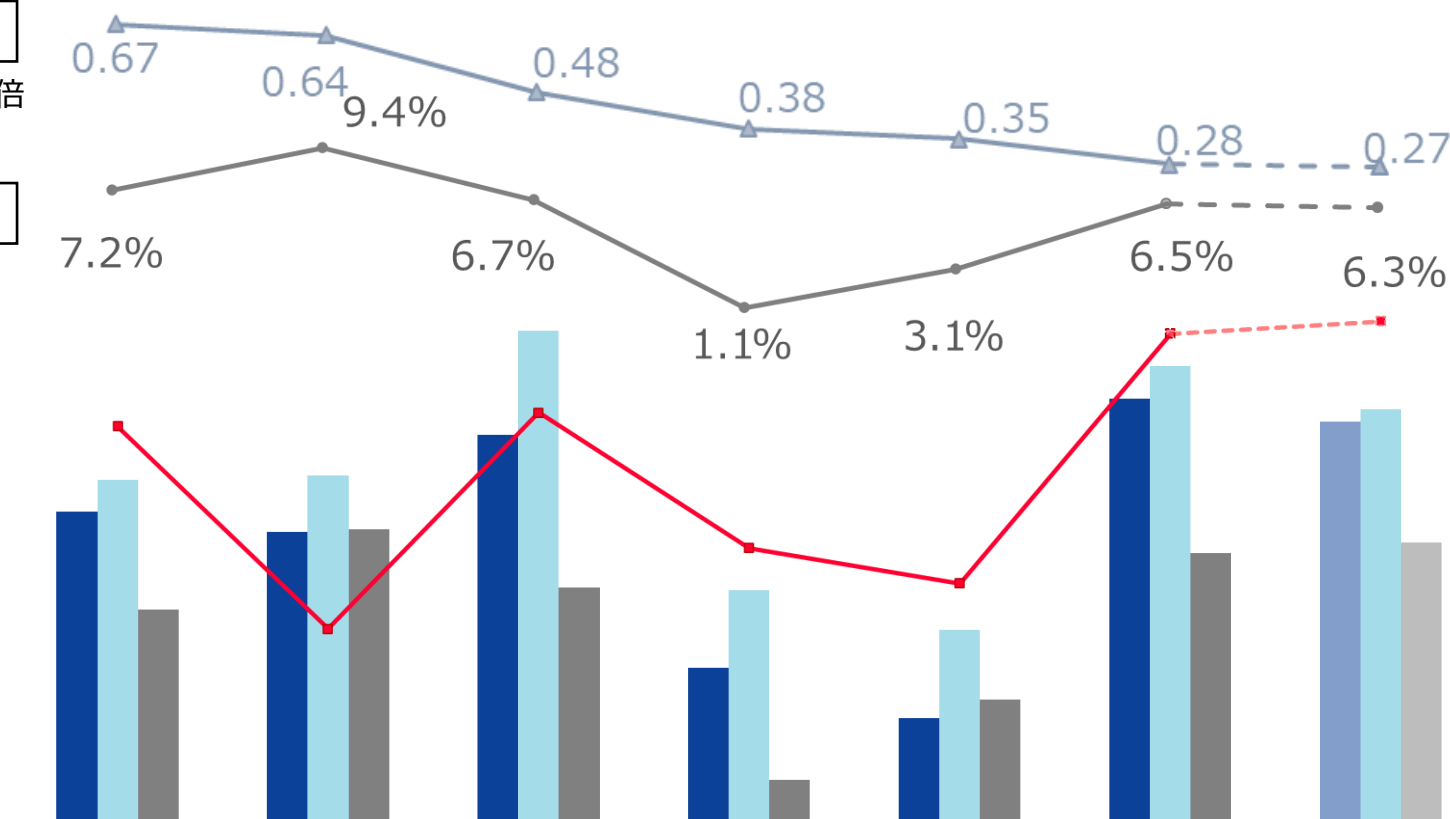


D/Eレシオ

単位：倍

ROE

営業利益
経常利益
当期純利益
売上高

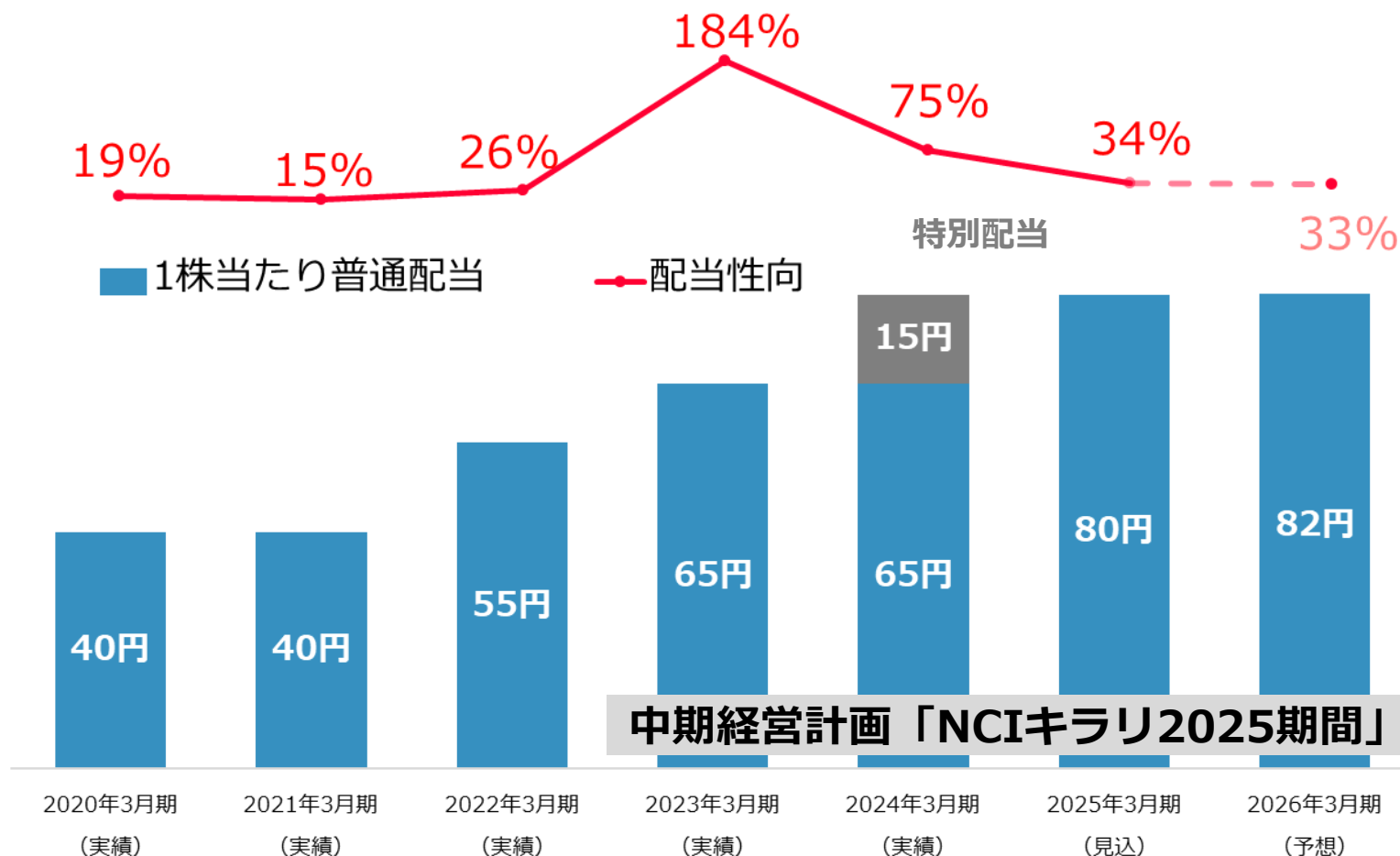


単位：
百万円

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期予想
売上高	46,699	42,231	47,003	44,008	43,231	48,727	49,000
営業利益	2,557	2,388	3,192	1,261	849	3,493	3,300
営業利益%	5.5%	5.7%	6.8%	2.9%	2.0%	7.2%	6.7%
経常利益	2,817	2,852	4,055	1,902	1,573	3,761	3,400
経常利益%	6.0%	6.8%	8.6%	4.3%	3.6%	7.7%	6.9%
当期純利益	1,741	2,406	1,930	332	999	2,211	2,300



配当性向30%以上を目途に、安定配当の継続を目指す。
2026年3月期は年間普通配当82円を予定。



機関投資家の皆様からのご質問・お問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

メールにてお問い合わせください
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えてものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。